MITSUBISHI ELECTRIC

三菱電機パッケージエアコン別売部品 直付方式加湿器据付工事説明書

PAC-SJ60HU

適用機種	4方向カセットEタイプ

安全のために必ず守ること

●据付けは、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

●据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、お客様に「安全のために必ず守ること」や 使用方法・お手入れの仕方などを説明してください。
また、この据付工事説明書は取扱説明書とともに、お客様で保管していただくように依頼してください。
また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しいただくように依頼してください。

⚠警告

据付けは、販売店または専門業者に依頼する。
●お客様自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災などの原因になります。

ポリ袋は幼児の手の届くところに置かない。
●頭からかぶるなどしたときに口や鼻をふさぎ窒息する原因になります。

据付工事は、この据付工事説明書に従って確実に行う。
●据付工事に不備があると、部品によっては水漏れや感電・火災などの原因になります。

据付け（移設）・電気工事をする前に ⚠注意

冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。
●不完全な断熱施工を行うと配管等表面が結露して、露たれなどが発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になります。
●接続部の断熱施工は気密試験後に行ってください。

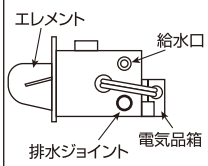
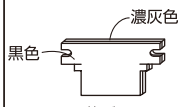
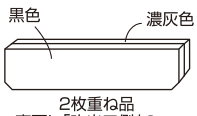
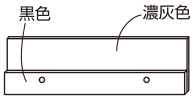
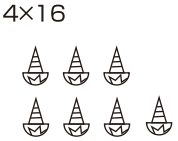
電源配線は、電流容量に合った規格品の電線を使用すること。
●漏電や発熱・火災の原因になります。

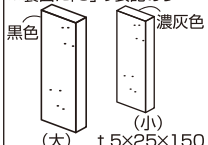
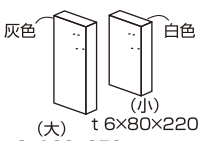
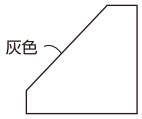
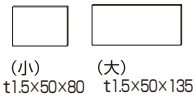
ドレン配管は、据付工事説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないよう断熱処理すること。
●配管工事に不備があると、水漏れし、天井・床その他家財などを濡らす原因になります。

0℃以下の雰囲気となり凍結のおそれがある場所には取付けないこと。
●破損、水漏れの原因になります。

1 部品の確認

この箱の中には、この説明書のほかに下記部品が入っていますのでご確認ください。
＊エレメントの変形、傷つきは水漏れの原因になりますので、加湿器本体を運搬する際にはエレメントを持たないようにしてください。
（搬入時は据付ける場所までできるだけ梱包のまま搬入してください）

① 加湿器本体	② 本体開口部断熱材	③ 本体開口部断熱材	④ 本体開口部断熱材	⑤ タッピングネジ	⑥ 排水ホース	⑦ バンド
 1台	 2枚	 2枚重ね品 ※裏面に「吹出口側」の表記あり 1枚	 ※裏面に「天板側」の表記あり 1枚	 7本	1個	3本

⑧ 排水ジョイント部断熱材	⑨ 配管用断熱材	⑩ ご注意ラベル	⑪ 本体天面用断熱材	⑫ 本体天面用断熱材	⑬ ラベル	⑭本体吹出口断熱材
※裏面に「8」の表記あり  各1枚	※裏面に「9」の表記あり  各1枚	1枚	※裏面に「11」の表記あり  4枚	※裏面に「12」の表記あり 4枚	1枚	 (小)2枚（大）6枚

2 据付前の準備

1. 現地手配部品

⑴ストレーナ…水中のゴミを捕集するため、メンテナンスしやすいところにストレーナを必ず取付けてください。
⑵止水用バルブ…シーズンオフ、または緊急時などの為に加湿器の配管上流側に止水用バルブを必ず設けてください。
⑶シスターンタンク…給水は公共の水道管に直接接続することはできません。
公共の水道管から給水しなければならない場合は、必ずご使用ください。
⑷減圧弁…供給水圧が0.5MPa以上の場合は減圧弁を取付けて0.05MPa～0.5MPaに調整してください。

2. 留意事項

据付けスペース

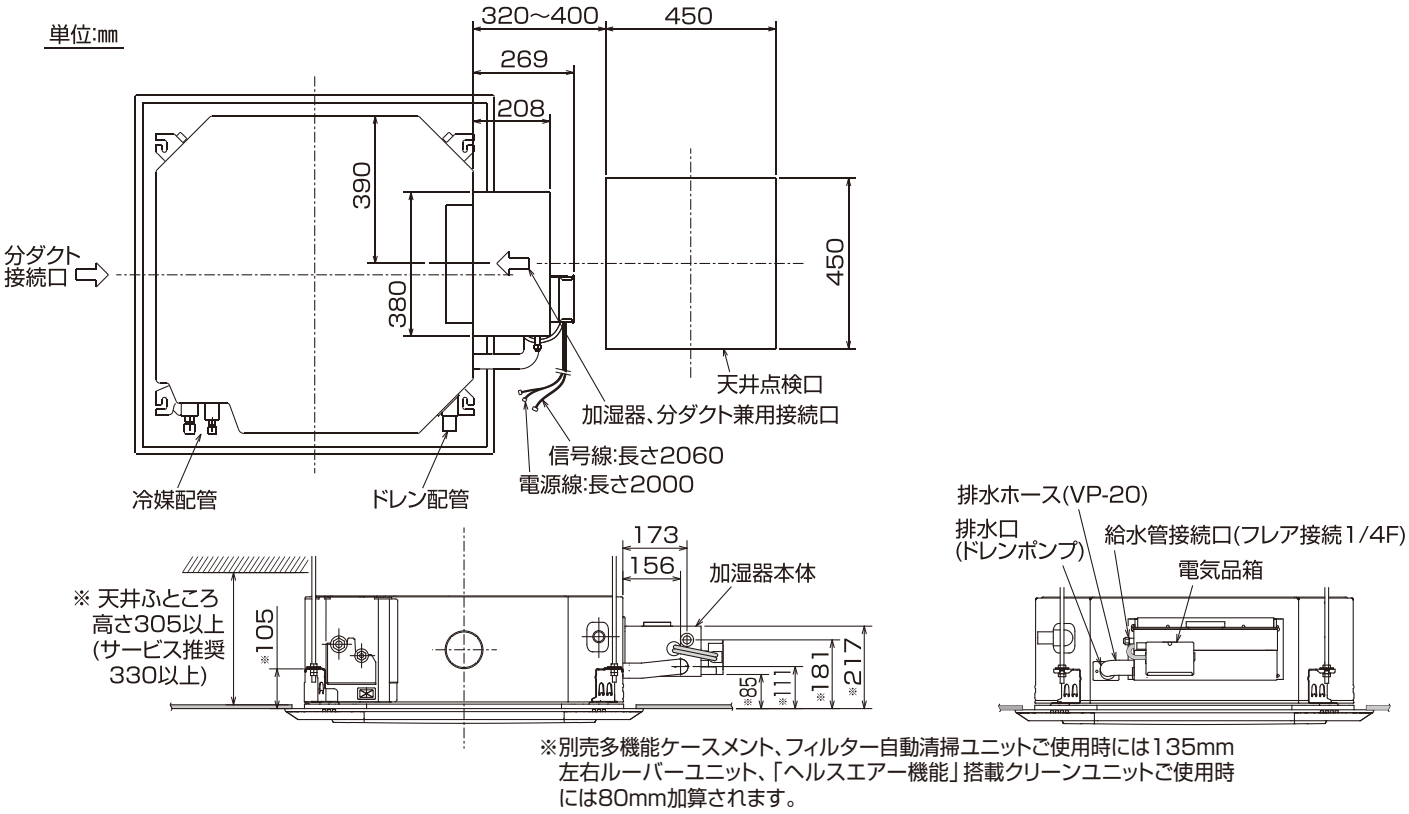
⑴加湿器の組込みは、天井材を張る前に必ず行ってください。
⑵加湿器の組込みに際し、天井構造の事前検討をお願いします。(天井施工業者様ともご相談ください)
⑶天井点検口を必ず設置してください。

加湿器の取付け

⑴本体吊り下げ時は必ず水準器にて水平となるように調整してください。
(両端の高低差が10㎜以上の場合、ドレンパンよりオーバーフローします)
⑵加湿器の取付位置は1ヶ所です。ドレン配管から見て右側面に行ってください。
(左側面は、分ダクト専用であり、取付けできません)

お願い

供給水圧は0.05MPa～0.5MPaの範囲で使用してください。
供給水圧が低いと、水量不足によるエレメント劣化の原因になります。



※別売多機能ケースメント、フィルター自動清掃ユニットご使用時には135mm
左右ルーバーユニット、「ヘルスエアー機能」搭載クリーンユニットご使用時
には80mm加算されます。

給・排水管工事

⑴供給水質…市水、上水またはこれと同等以上の水を使用してください。
※供給水が下記水質を満足しない場合は、加湿エレメントの寿命が短くなります。
・硬度　70mg/L 以下
・酸消費量　50mg/L 以下
・イオン状シリカ　30mg/L 以下
⑵供給水温度…5℃～40℃
⑶供給水圧… 0.05MPa～0.5MPaの範囲でご使用ください。0.5MPa以上の場合は減圧弁を取付けて
0.05MPa～0.5MPaに調整してください。
⑷止水用バルブ(現地手配)およびストレーナ(現地手配)を必ず取付けてください。(5 給水配管工事 参照)
⑸排水には必ず付属の排水ホース⑥をご使用ください。

2 据付前の準備 のつづき

断熱材⑪⑫の貼付け

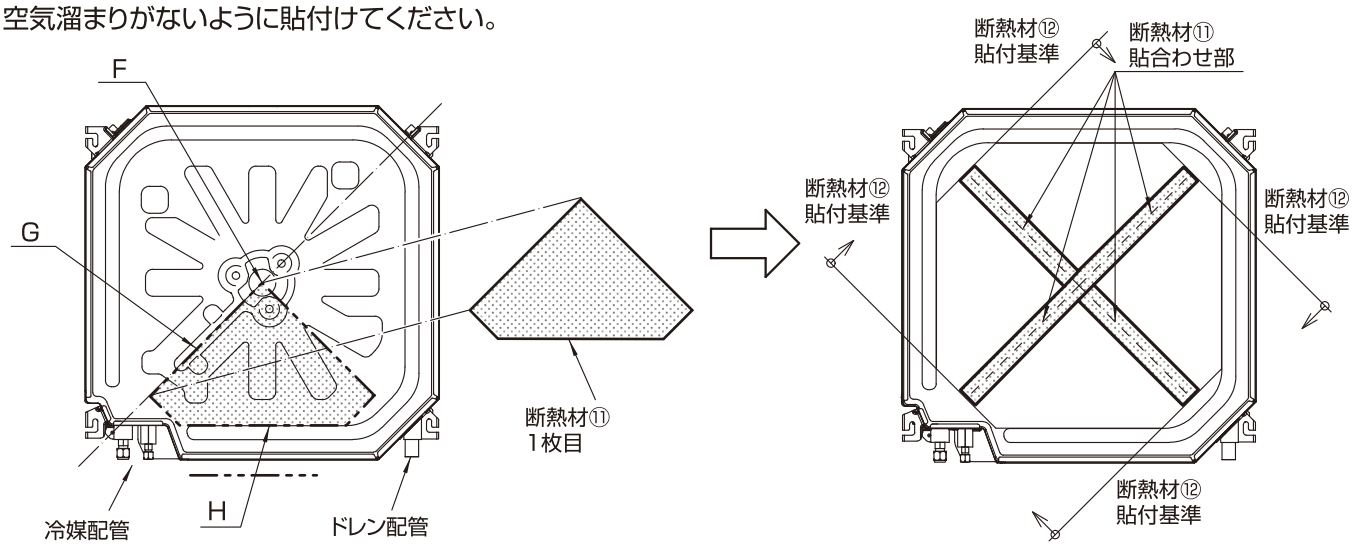
マルチ機種の場合(スリムK機種を含む)は必ず断熱材を貼付けてください。断熱材⑪⑫の貼付けは、室内ユニット据付前に行ってください。室内ユニット据付後の貼付けは難作業となります。

(1)断熱材⑪の1枚目は室内ユニット天面の中心部(F)、凸形状の中心線(G)、凹形状の端部(H)を目安に合わせ貼付けてください。

(2)断熱材⑪の2枚目以降は1枚目に突き当て、隙間が無いように貼付けてください。

(3)断熱材⑫は断熱材⑪の貼合わせ部を覆うように貼付けてください。(順不同)

※空気溜まりがないように貼付けてください。



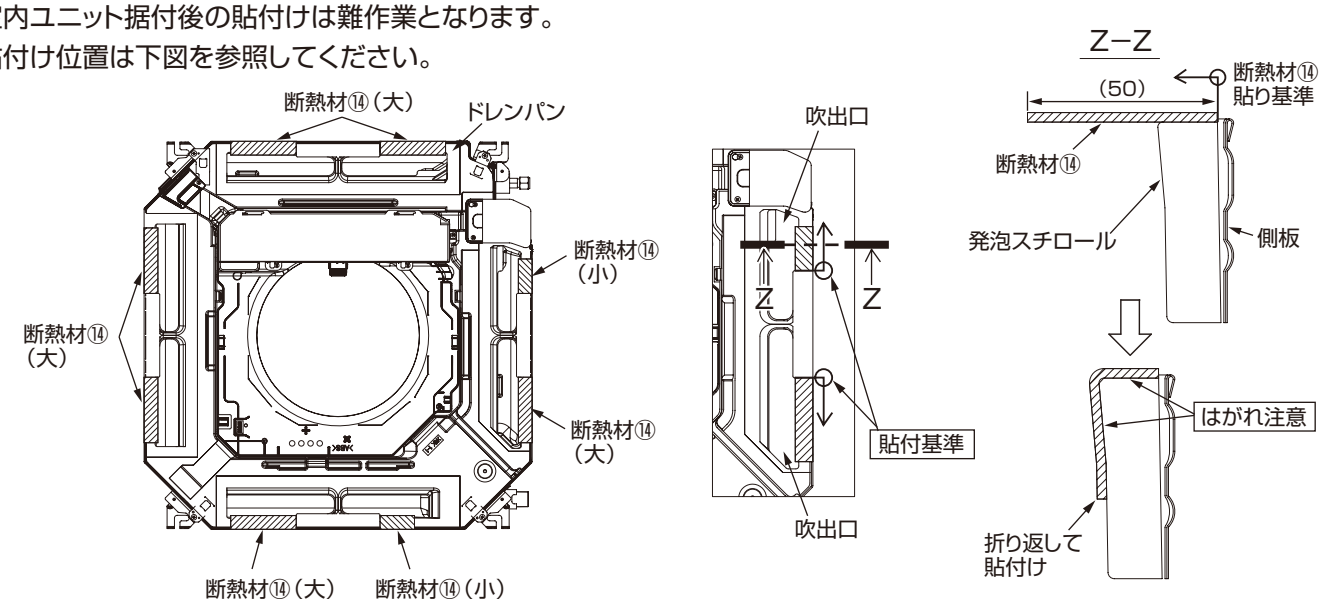
お願い

- 断熱材⑪⑫は必ず室内ユニット天面に貼付けてください。貼付けに不備があると、露付き・露たれの原因になります。
- 断熱材⑪⑫はのり付き品です。貼付けるとはがれないため、貼付位置をよく確認したうえで貼付けてください。
- 室内ユニット天面はネジの先端部分が出ているので、貼付けの際は十分に注意して作業してください。

断熱材⑭の貼付け

加湿器と左右ルーバーユニット、多機能ケースメント、フィルター自動清掃ユニット又は「ヘルスエアー機能」搭載クリーンユニットを併用する場合は必ず断熱材⑭を貼付けてください。断熱材の貼付けは、室内ユニット据付前に行ってください。室内ユニット据付後の貼付けは難作業となります。

貼付け位置は下図を参照してください。



お願い

断熱材⑭ははがれないよう、確実に貼付けてください。貼付けに不備があると、露付き・露たれの原因になります。
断熱材⑭はのり付き品です。貼付けるとはがれないため、貼付位置をよく確認したうえで貼付けてください。

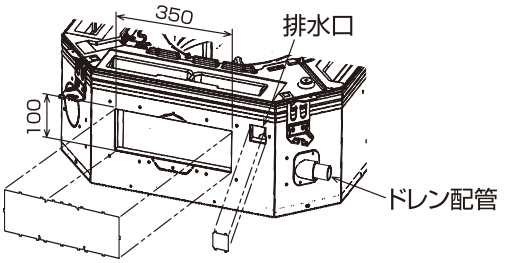
2 据付前の準備 のつづき

制約事項

⑴室内ユニット分ダクト(2ヶ所)のうち、1ヶ所は加湿器取付で使用できなくなります。
⑵加湿器を取付けた場合、2方向、3方向吹き出しはできません。必ず4方向吹き出しでご使用ください。
（能力の低下および露たれなどが発生する原因になります）
⑶ドラフトセーブ機能は使えません。

3 加湿器取付手順

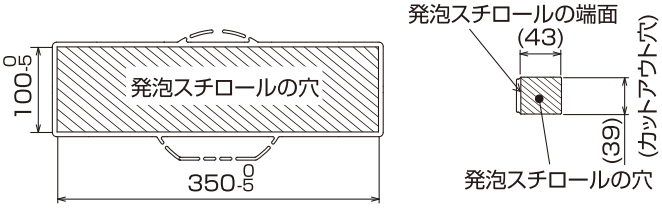
1. 室内ユニット本体の取付用カットアウト穴、排水口用カットアウト穴をあけます。
⑴100×350角ダクト、排水口のスリットがついていますのでニッパーなどでスリットを切り落とします。



お願い

加湿器の取付けは左図の位置に行ってください。
他の位置には、取付けできません。

⑵100×350角ダクト、排水口の角穴に合わせて切り落とし部(ハッチング部)の発泡スチロールをカッターなどで切り落とし、穴をあけます。
※穴あけ寸法を守らないと水漏れの原因になります。

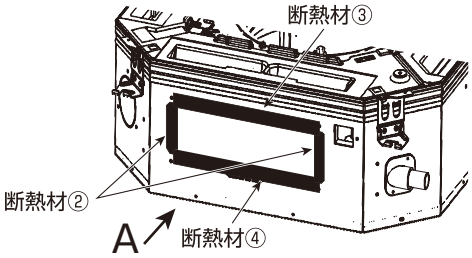


お願い

発泡スチロールの切り粉は必ず取り除いてください。
ドレンポンプのつまりの原因になります。

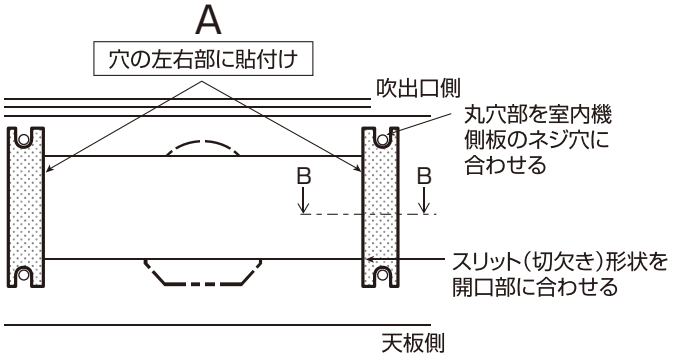
2. 角穴に付属の断熱材を貼付けます。
⑴ 断熱材②の貼付け
断熱材②を、穴の左右部に貼付けます。

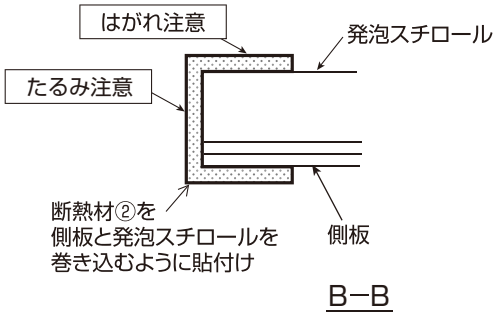
・断熱材②の丸穴部を室内ユニット側板のネジ穴に、スリット（切欠き）形状を開口部に合わせ、室内ユニットの側板と発泡スチロールを巻き込むように貼付けてください。
・断熱材ははがれなきよう、よく押し付けて貼付けてください。
※特に室内ユニット内側（発泡スチロール側）の断熱材がはがれ、加湿エレメントと接触すると、水漏れが発生する原因になります。



お願い

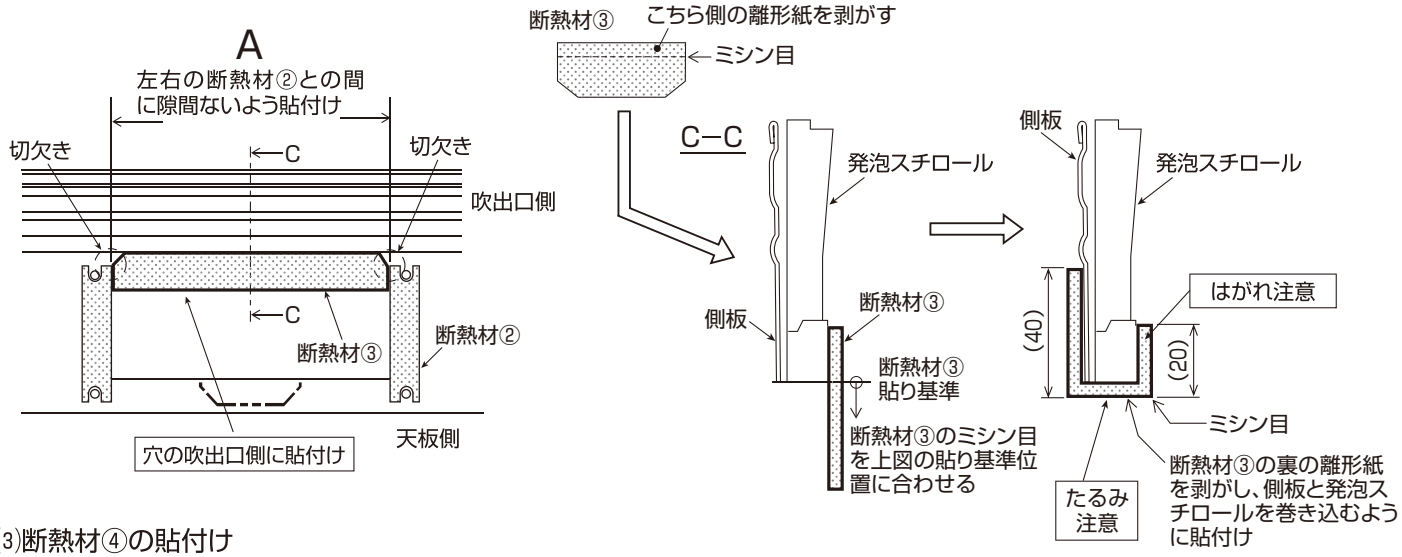
断熱材にはがれ、たるみが無いようにしてください。
エレメント部に断熱材があたると水漏れの原因になります。



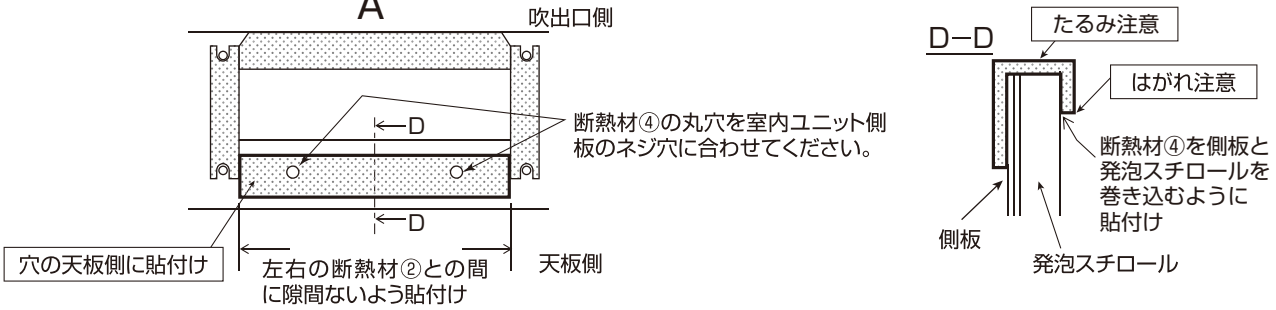


3 加湿器取付手順 のつづき

(2) 断熱材③の貼付け
断熱材③を、穴の吹出口側に貼付けます。
※断熱材③は裏の離形紙に「吹出口側」の記載があるので、貼付けする前に確認してください。
・断熱材③のミシン目が下図の貼付基準位置に合うように貼付けてください。
・側板と発泡スチロールを巻き込むように貼付け、はがれなきよう、よく押し付けてください。
※特に室内ユニット内側(発泡スチロール側)の断熱材がはがれ、加湿エレメントと接触すると、水漏れが発生する原因になります。

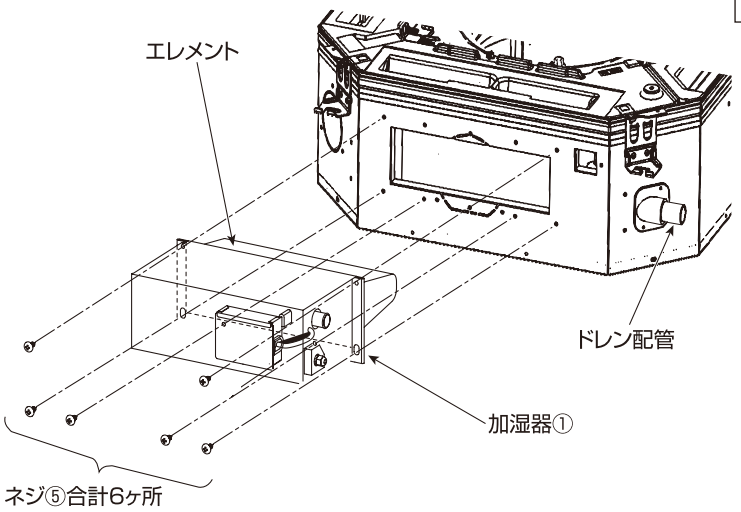


(3)断熱材④の貼付け
断熱材④を、穴の天板側に貼付けます。
※断熱材④は裏の離形紙に「天板側」の記載があるので、貼付けする前に確認してください。
・断熱材④の丸穴部を室内ユニット側板のネジ穴部に合わせ、左右の断熱材②との間に隙間がないよう貼付けてください。
・側板と発泡スチロールを巻き込むように貼付け、はがれなきよう、よく押し付けてください。
※特に室内ユニット内側(発泡スチロール側)の断熱材がはがれ、加湿エレメントと接触すると、水漏れが発生する原因になります。



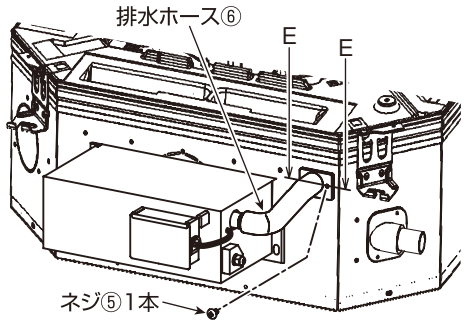
お願い
据付時、エレメントを持ったり、当てたりしないでください。
傷ついたり、変形すると露たれの原因になります。

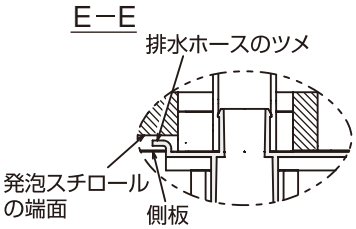
3. 室内ユニット本体に加湿器①を取付けます。
(1) ネジ⑤6本で加湿器①を固定してください。



4 排水配管工事

1. 室内ユニット本体側の排水ホース⑥を取付けます。
 ⑴ 排水ホース⑥ツメ部を室内ユニット本体の側板とスチロールの間に引っ掛け、ネジ⑤1本で固定してください。

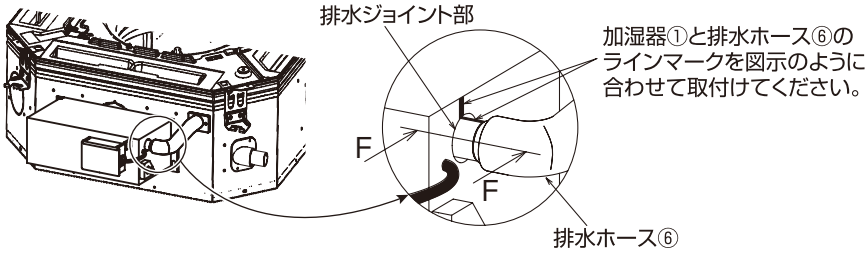


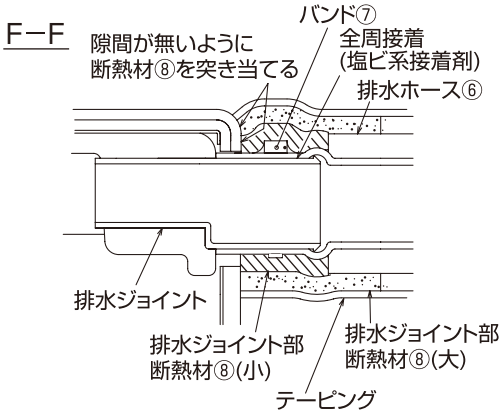


お願い

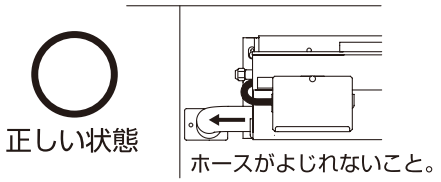
排水ジョイント根元に大きな力を加えないでください。
(破損した場合、水漏れの原因になります)

2. 加湿器側の排水ホース⑥を取付けます。
 ⑴ 排水ジョイントに塩ビ系接着剤を塗付し、排水ホース⑥を突き当てるように挿入してください。
 ⑵ 排水ホース⑥の排水ジョイント挿入部をバンド⑦で締付けてください。
 ⑶ 排水ジョイント部断熱材⑧を(小)(大)の順に隙間がないように巻いてください。
 ⑷ 断熱材⑧の上からテーピングしてください。
 ※ 断熱材の取付けは確実に行ってください。
 不備があると、露付き・露たれの原因になります。



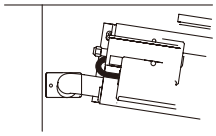


●水漏れの原因になりますので必ず室内ユニット側へ傾斜させてください。

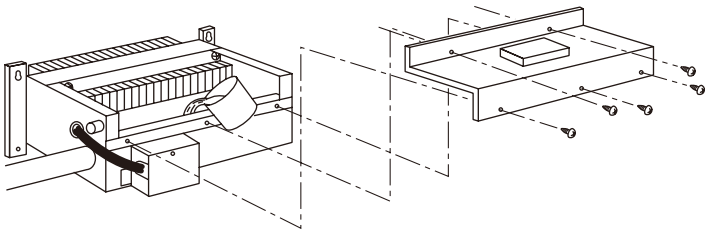


お願い

加湿器側へ傾斜させないでください。

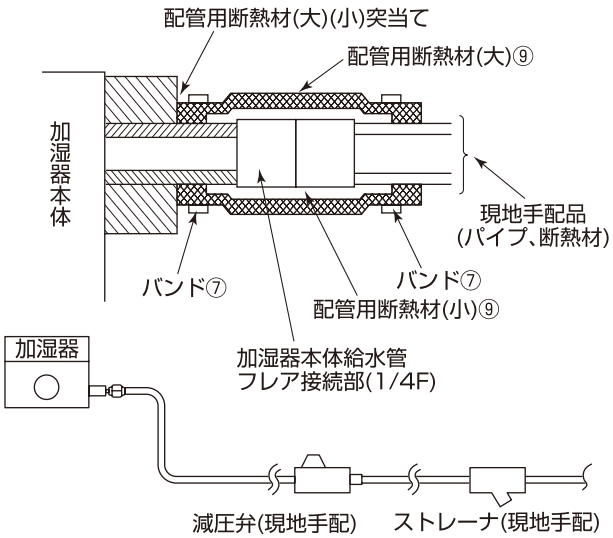


3. 排水性確認
 ⑴加湿器の蓋を取外しドレンパンに水(約1リットル)を徐々に注水して、排水性を確認してください。
 (9 試運転 で室内ユニット本体のドレンポンプから排水されることを確認しますので、それまで水を抜かないでください)



5 給水配管工事

- 供給水圧は0.05MPa～0.5MPaの範囲でご使用ください。
  0.5MPa以上の場合は減圧弁(現地手配)を取付けて
  0.05MPa～0.5MPaに調整してください。
- 加湿器への接続は1／4Fフレア接続です。
- 加湿器給水管の接続はダブルスパナでしっかり締付けてください。
  (締付トルク：16±2 N・m)
- 付属の配管用断熱材⑨とバンド⑦を使って配管接続部の断熱を行ってください。それ以降につきましては現地手配にて露たれ、冬期の凍結破損などないよう十分な断熱を行ってください。
- ストレーナはサービスできる所へ設置してください。
- ストレーナおよび現地の配管部分には、十分な断熱を行ってください。(発泡ポリエチレン比重0.03肉厚9mm以上)
  不十分な場合は、露たれ、冬期の凍結破損の要因になります。



お願い

供給水圧は0.05MPa～0.5MPaの範囲で使用してください。
供給水圧が低いと、水量不足によるエレメント劣化の原因になります。

6 室内ユニット本体への配線接続

- 加湿器に接続されている電源線と信号線を室内ユニット本体へ取入れます。

(1) 現地配線用サービスパネルを固定しているネジ2本をゆるめ、現地配線用サービスパネルを図示位置まで回転させる。【図 1】

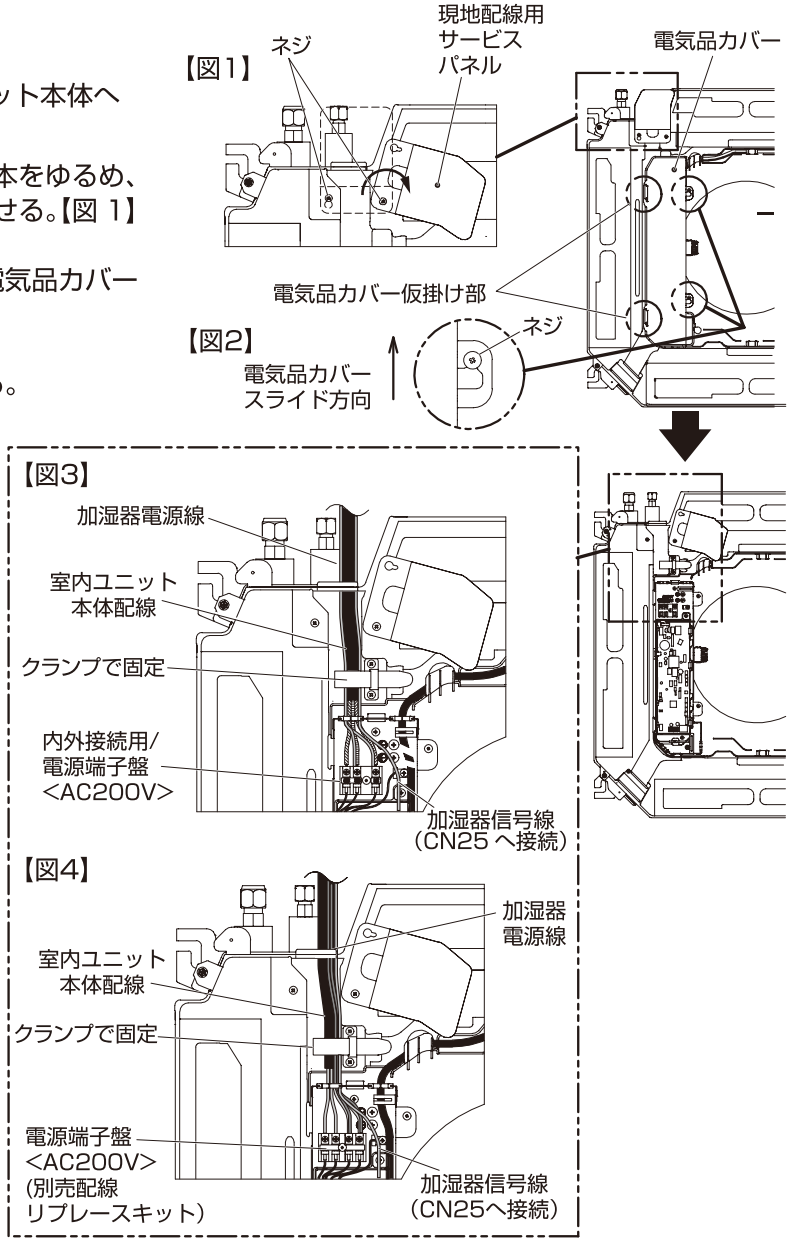
(2) 電気品カバーを固定しているネジ2本をゆるめ、電気品カバーをスライドさせて取外す。〔仮掛け可能〕【図 2】

(3) 各配線を、配線取入口より室内ユニット内に入れる。

(4) 各配線を端子盤に確実に接続する。
①スリム機種(スリムK機種を除く)の場合【図 3】
内外接続用端子盤の「S1」「S2」端子へ接続してください。
②スリム機種で電源配線接続方式が内外別受電方式または室外ユニットより室内ユニットに電源を供給する方式の場合【図4】
電源端子盤(別売)の「R」「S」端子へ接続してください。
③マルチ機種(スリムK機種を含む)の場合【図 3】
電源端子盤の「R」「S」端子へ接続してください。
※サービス時を考慮して、電気品箱を室内ユニットの下に降ろすための余裕を配線に持たせてください。

(5) 配線を室内ユニット本体に取付けのクランプで固定する。

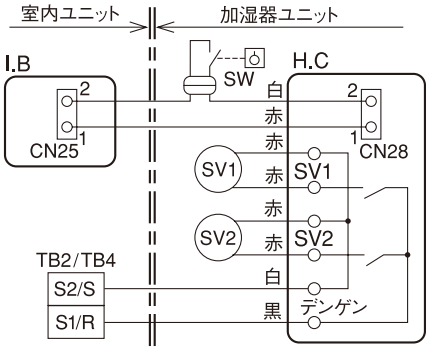
(6) 取外した部品をもとどおりに取付ける。



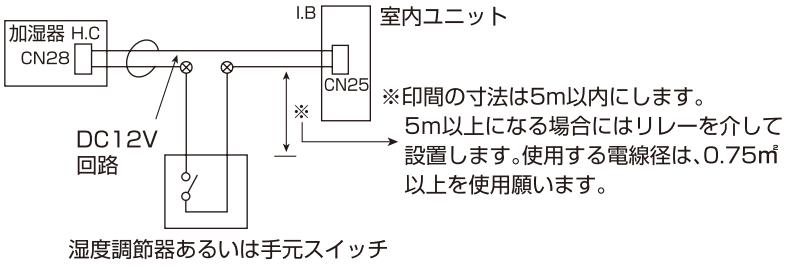
6 室内ユニット本体への配線接続 のつづき

●電気配線図に基づいて配線接続をします。
〔室内ユニット側のみ〕

	記号	名　称
室内ユニット	TB2/TB4	端子盤〈電源　内外接続線〉
	I.B	室内制御基板
	CN25	コネクター〈加湿器〉
加湿器ユニット	H.C	加湿器制御基板
	CN28	コネクター
	SV1	電磁弁〈給水〉
	SV2	電磁弁〈保護〉
	SW	フロートスイッチ



●湿度調節器あるいは手元スイッチを使用する場合の配線変更(現地手配)においてコネクターCN25とCN28に接続している線間に直列に入れます。



7 室内ユニットの機能設定

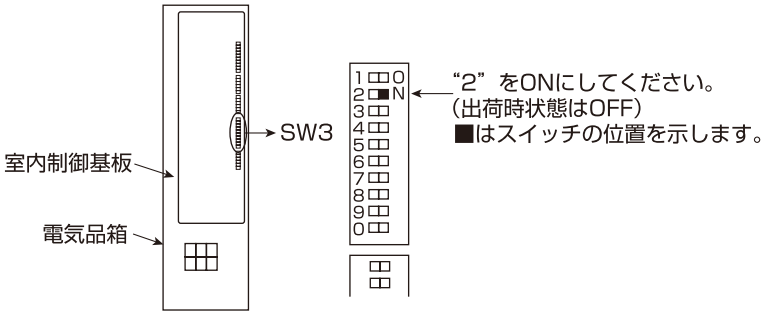
加湿器を取付けた場合、リモコンまたは室内制御基板で室内ユニットの機能設定を変更してください。

⑴ スリム機種の場合(スリムK機種を除く)

リモコンからの設定となりますので、別紙の説明書に従って“加湿器あり”の設定(モード番号：13，設定番号：02)にしてください。

⑵ マルチ機種の場合(スリムK機種を含む)

室内制御基板のディップスイッチを下図のように設定します。



お願い

加湿器を取付けた場合、室内ユニットの機能設定をしてください。
設定に不備があると加湿器が正常に動作しません。
また、室内ユニットからドレンが排水されず、水漏れの原因になります。

8 注意書きの取付け

据付後、付属のご注意ラベル⑩を室内ユニット本体の手元開閉器の付近に取付けてください。

ご　注　意

このエアコンには、加湿器が組込まれています。開閉器を「OFF」にする場合には、必ず、加湿器の止水弁（元バルブ）を閉じてください。

開閉器を「OFF」にしますと、加湿器が故障した場合の水漏れ防止機能がはたらかなくなり、水漏れの原因になります。

9 試運転

⑴もう一度、結線が正しく行われているか確認してください。
⑵給水配管が、確実に接続されているか確認してください。
⑶給水配管の止水用バルブを開いてください。(この時、加湿器に水はまだ供給されません)
⑷電源を入れて室内ユニットを暖房試運転の状態にしてください。
(試運転のしかたは室内ユニットに付属の据付工事説明書を参照してください)
〈この時、給水が始まり、加湿運転が始まります〉
⑸ドレン口透明可視化部およびドレン配管の最終出口部で室内ユニットからの排水を確認してください。
⑹暖房試運転開始後、数分ごとに給水用電磁弁の作動音(カチッという音)がしますので
それを目安に約 20 分間正常な加湿運転をしているか、確認してください。
⑺試運転が終わりましたら、止水用バルブとストレーナの位置をお客様に説明してください。

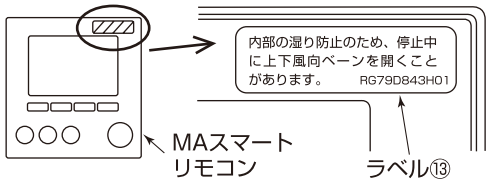
お願い

試運転時、水漏れ、水飛び、露落下などが無いことを必ず確認してからお客様に引き渡してください。

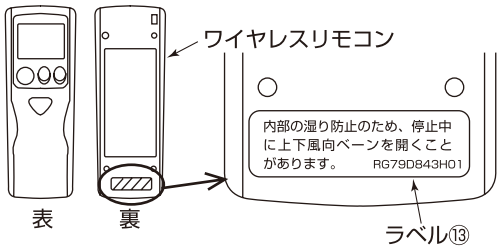
10 運転のしかた

加湿器を取付けた空調機を暖房運転にすれば、自動的に加湿運転します。
室内ユニット本体に付属の取扱説明書を参照して、暖房運転してください。
※PLFY-(E)P・EM シリーズ、PLZ-RP・EM シリーズの場合
室内ユニットの運転停止中に内部のしめりを防止するため、
上下風向ベーンを開くことがあります。
据付後、付属のラベル⑬をリモコンに貼付けてください。

〔MAスマートリモコンの場合〕



〔ワイヤレスリモコンの場合〕



11 保守・点検

1. 保守点検方法

お願い

加湿器の保守はお買い上げの販売店もしくは専門の業者に依頼してください。
お客様自身で行い、不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。

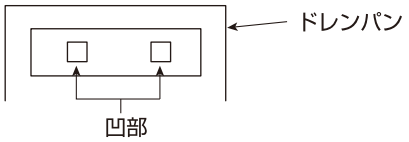
長い間ご使用いただくために、一年ごとの以下の部品の保守点検を行ってください。
また、加湿エレメントは交換の必要な消耗部品です。

点検部品	保守点検内容	
	点検項目	処置内容
加湿エレメント	蒸発残留物、ゴミ・ホコリの点検	エレメントが蒸留残留物、ホコリ・ゴミなどで汚れていないか確認してください。ホコリ・ゴミのみの場合は清掃してください。交換の目安は3シーズン(3750hr)です。
ストレーナー	ゴミによる目詰まりの点検	ストレーナーの清掃を行ってください。
	Oリングの亀裂の点検	傷が生じている場合はOリングを交換してください。
電磁弁	水漏れの点検	水漏れがある場合は、部品交換を行ってください。
ドレンパン	ドレンパン内の汚れの点検	汚れている場合はドレンパンの清掃を行ってください。
サブドレンパン	サブドレンパン内の汚れの点検	汚れている場合はサブドレンパンの清掃を行ってください。

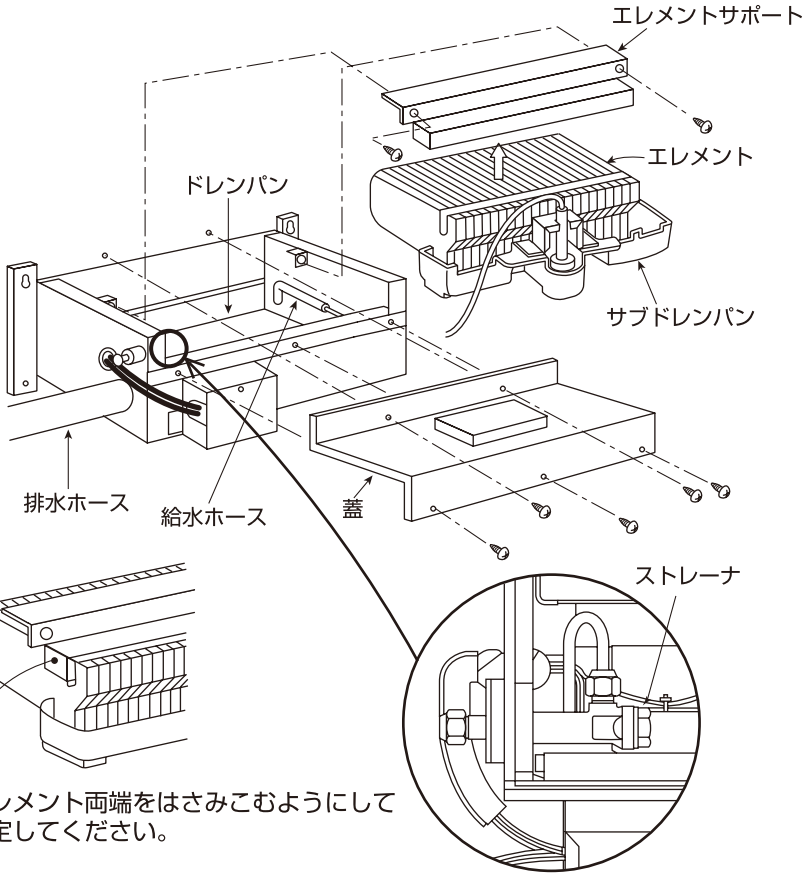
※長時間使用しますとエレメントは劣化し、加湿能力の低下、変色、白粉の発生や室内機本体の熱交換器の腐食の要因となる場合があります。
使用環境によっても異なりますが、3年を目安に交換してください。

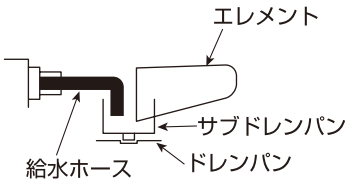
作業手順

①蓋を取外す。(ネジ5本)
②エレメントサポートを取外す。(ネジ2本)
③エレメントをサブドレンパンごと取出す。
④エレメントを交換して元に戻す。



＊ドレンパンの位置決め用凹部とサブドレンパンの凸部を合わせてセットしてください。





＊給水ホースが必ずサブドレンパンの中へ入るようにしてください。

エレメント両端をはさみこむようにして固定してください。

2. 加湿エレメントの乾燥についてのお願い
暖房シーズン終了後、加湿エレメントを濡らしたまま放置しますと、場所によってはカビが発生しやすくなりますので強制乾燥を行ってください。強制乾燥は、給水バルブを閉じ、暖房運転を行ってください。

MEMO

MEMO

MEMO